

小学校 3年 総合的な学習の時間

考える

話す・聞く
書く
読む

育成したい
国語力

自分や友達の成長（中心点）に気付きながら話したり、聞いたりする。体験や活動を関連付け、自分や友だちの成長（中心点）を明確にして書く。相違点や共通点を明確にし、内容を比べながら読む。

単元名

「ぼくらは、地域たんけんたい」

本時の目標

体験や活動を通して自分や友だちのがんばりや成長に気付くことができる。（自己評価力）

本時の流れ

導入

本時のめあてを確かめる。

めあて：今までの活動をふりかえり、自分のがんばりや伸びを見つけよう。

展開

これまでの学習を振り返って話し合う。今までのふりかえりカードを参考に、気付いた自分のがんばりや伸びを付せんに書き出す。

自分の体の絵を描き、どこにどの力が付いたか、どの力が伸びたか付せんに貼り、確かめる。

内容を相互に関連付けて、自分の考えを文章に表す。

グループの友達と振り返りカードを読み合い、相互評価（手紙）を加える。

まとめ

相互評価を読み合い、次単元への意欲をもつ。

国語力育成の視点

小学校の総合的な学習の時間では、自ら課題を見つけ、自ら学び考え、問題を解決する力などを育てること、また、情報の集め方、調べ方、報告や発表・討論の仕方などの学び方やものの考え方を身に付け問題解決に向けての主体的、創造的な態度を育成すること、自分の考えや意見をもったり、自分のよさに気付き、自分に自信をもったりするなどして自己の生き方について考えることができるようにすること、さらには各教科等で身に付けた知識や技能等を相互に関連付け、学習や生活において生かし、それらが総合的に働くようにすることをねらいとしています。

とりわけ、話し合い、文字による記録やそれらを発表すること、課題解決をするための資料の読み取りなどの言語活動は、総合的な学習の時間のねらいを達成するために大きな役割を果たしています。

本指導例は、「話し合うこと」「読むこと」「書くこと」を通して、自分たちのよさやがんばりに気付き、考える力を高めることができるようにするものです。

視点 ①

まず、学級全体で話し合いをし、友達の気付きに触れます。自分だけでは気付かなかった気付きを得ることができたり、つないで考えたりすることで質の高い気付きになっていきます。

単元をふり返し、ファイリングしてきた「ふりかえりカード」や教室に掲示している「あしあとカレンダー」などから情報を取り出し、自分の成長を見つめることも大切です。

感覚的であいまいな自己への気付きが、「書くこと」によって意識化されてきます。

視点 ②

相互評価（手紙）では、自己評価した内容を読み、相手の受け取り方を感じ取りながら分かりやすい手紙の文章に表す力が育成されます。

教材等の例

ふりかえりが、自分の考えを入れてくわしく書けるようになりました。 にいって教えてもらった「 おどり」は、とてもむずかしかったけど、がんばって練習したらじょうずにできるようになりました。

ぼくは、 さんの家に行って、やさい作りのことを聞いたり、いっしょに畑のせわをさせてもらったりして、やさいのことがいっぱい分かりました。 やさいを育てているおじさんの気持ちを考えることもできました。

たんぼで仕事をしている人を見つけて、インタビューをしました。じょうずにできたと思います。

地いきで発見したことを発表する時、大きな声で言えました。「初めに」「次に」などを使って、じゅんじょに気をつけて説明ができました。発表が楽しくなりました。

たずねたいことをたくさん書き上げて、聞き取り調査の準備ができました。インタビューのしかたやメモの取り方もじょうずになったと思います。

ふりかえりカード

より

さんへ

低学年

中学年

高学年

中学前

中学後

国語

社会

算数

理科

生活

外国語

活動

道徳

総合的な学習